森の名手・名人シリーズ45

名人　浅野　貞夫（69）
岐阜県岐阜市

聞き手　森　愛恵
岐阜県立加茂農林高等学校2年
平成26年取材

彫刻師
私と彫刻
―欄間にかける想い―

「森の名手・名人」とは、森に関わる仕事や地域生活に染み込んだ営みのうち、優れた技をもってその業を極め、他の模範となっている達人で、毎年、全国で約100名が認定されています。岐阜県においては、現在、50名の「森の名手・名人」が認定されています。

この「森の名手・名人」を「森の"聞き書き甲子園"」に参加した高校生が「聞き書き取材」をしたものの中から誌面の関係上要点を抜粋したものです。なお、年齢、住所、学年は取材当時のものです。

1. 欄間

欄間というのは、ふすまの上にあって部屋と部屋の空気も通うし、見て癒されたり、見て楽しむってことでもできる。欄間の種類は、私の得意としとる「象嵌（ぞうがん）欄間」と、彫るのが難しい「透かし欄間」、それと普通に彫る「彫刻欄間」があって、風景を彫るのが多いですね、滋賀県の「近江八景」とか。彫刻欄間は明るい部屋で見ると彫刻が浮き出てよく見えて、透かし欄間はね、隣の部屋の電気をつけるとその柄が浮いて出てくるの。その雰囲気が2つとも違って良いよ。

私の彫刻はほとんど着色しないから、店に切り端揃えて出してあるけど何もやってないです。色をつけるにしても透明です。自然な木を見てもらう。そういうのが多いです。

岐阜県の笠松の馬をイメージして作った彫刻欄間

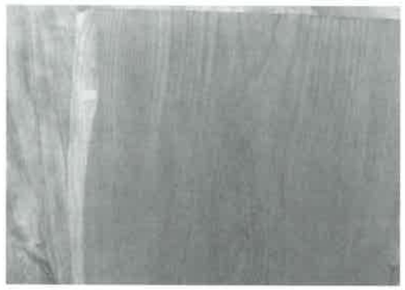
2. 彫刻刀

彫刻刀は主に、切り出しとか丸のみ、三角刀を使います。切り出しは、切った小口を削ったりするのに使う。丸のみは、丸いとこをとったりするのが特徴で、三角刀は材木で作ったマツの葉を刻んだりするのに使うね。ちっちゃいものを作るときは道具もちっちゃくなるよ。形や大きさが変わるだけで基本は3種類。私は100本ぐらい彫刻刀をもってる。普段はそんなに使わないけどね、込み入ったものを作るときにほしいから。

3. 欄間に使う木

欄間に使う木は大体、スギが多いんです。木目がすごく綺麗に見えるからね。スギでも樹齢がね、200年、300年のもんが良くて、普通に生えとるスギやなくて銘木が良い。でも冬目が堅いからなかなか彫りにくい。

今はね、ほとんど切ってしまってなかなか出てこないんだけど、秋田スギって言ったら銘木中の銘木。スギの中で1番高級なのは屋久スギやね。世界遺産になって切れないけど、普通のスギと樹齢が全然違う。1000年以上たたんと屋久スギとは言わん。それとね、神代スギ。主に東北でとれるんだけど、昔の震災やなんかで土の中に埋まった石炭になる寸前の木ね。それを掘りだして使うの。神代スギは製材で切って時間がたつと黒くなってくるんよ。



左側の木が屋久スギ、右側が神代スギ。色が全然違う

4. 欄間を作る

最初は、自分で丸太を買ってきたり製材で切ってもらって、欄間を作るのにどういった板が良いかっていう選別やね。それから機械にかけて板を削ったり、注文の厚さに切って加工する。

下絵を描くには、チョークで下絵の輪郭をとって、色鉛筆で段々絵の形をとる。そんで、いらないところを切ってとれるようにする。そうしないと、木と木のつながりとか絵と絵のつながりが分からなくなるからね。そして彫り始める。

板を彫ってまってからでも、まんだ周りの縁を作らんならん。それを彫ってから、最後に磨きをかけて完成。

欄間には、並と並彫り、上彫りと特上とあって、それによって絵も、描き方と完成までの時間も違う。板の厚みにもよるけど、松竹梅とか細かい柄は彫るのに時間がかかる。予算にもよるしね。

5. 欄間彫り

欄間にはめ込む「象嵌」っていうのがあるんやけど、1枚の板に彫るんじゃなくて別の板をはめ込んで、裏から見ても表から見ても同じような柄になる欄間。1枚の板に部分的な彫刻をしてからくり抜いて、別の木材をはめ込む。大きいものはね、板の長さが2m で、幅が1mの1枚板にいろんな柄をはめ込むの。象嵌はなかなか難しい。いろんな柄をはめ込もうと思うとある程度の技術がないと入らない。そういうのを私は得意としてます。

私のオリジナルを新しい柄で作ったの。それは自分でも自慢できる欄間で、裏と表を違う柄で彫ったの。絵巻からとった柄だったから巻物の形にしたような縁にして、表は武士と殿様が狩りをしていて、お城の中で料理作っとるとことかね、裏は富士山。作ったのは20年前か30年前ぐらいになるかもしれん。それはね、キリの木で彫ったんです。普通の欄間は空気が通る穴が開いてるんやけど穴を開けずに彫った。貫通させて、いらないところは取った方が楽なんだけどね。

欄間の中では透かし欄間が難しい。直線とか筋で風景とか動物を表さんならんでね。普通に彫るよりも透かし彫りの方が正確さが大切。まっすぐな直線でも機械やなくて手でやろうと思うと、ちょうとでも曲がったらまっすぐに見えないから。あとね、技も難しい。尖った長い彫刻刀でくり抜いたり綺麗に削ったりするから。簡単なようで難しいよ。

私が彫刻師になったときは彫刻欄間ばっかやってたんだけど、後になってくると象嵌欄間とか透かし欄間が時代によって多くなってきたね。昔もあったやろうけど、そんなに多くなかったと思う。

6. 欄間が抱く問題

昔は毎日欄間を彫ってた。休みなんてほとんどなかったでね。欄間だけを持ち歩く業者がいてね、欄間だけで生活できとった。その頃は建て売りとかどんな家でも欄間がほとんど入る時代だったから。良い家になってくると「うちはこういうすごい欄間を入れた」とか自慢にしてね…。今、欄間を入れるような家は建ってないし、阪神の地震から建築がガラッと変わっちゃって。ほんで、耐震耐震で日本の家屋の良さがかなり消えてしまって。政府の方も耐震ばっかり。今までね、大工さんに頼んでいたこともう今はやってくれる人がいなくて全部自分でやってる。今は欄間だけでやっとったら廃業やわね。

名人の名刺。
木でできていてかっこいい！

7. 欄間以外の彫り物

お寺関係になるんやけど、「虹梁（こりょう）」とかね、お客さんに頼まれるとテーブルを作ったり。昨年は学習机を頼まれたね。椅子なんかはね、調節できるように作らしてもらった。表札も彫るよ。看板もお菓子屋さんとか、そういうのは2週間や3週間でできます。あとは、彫刻教室の教材のもとを作ってあげてるんです。姿見の鏡の横のバラとかを下書きとか描いて彫るばっかりにしてあげるの。大量生産はできないけど…。大きい彫り物になると手で持てないようなものも扱うこともあるし、小さいものはほんとにちっちゃいよ。

田舎に行くと1枚板の戸があるんだけど、それに松と梅、菊と蘭を彫ったんです。4枚セットで。そういう大きいものに彫ったことが印象深いです。

名人が作った表札

名人が作った小物入れ

8. 彫刻師として

仕上がった作品の中には気に入らないものもあって100%満足できるものはなかなかできないんだけど、満足のいくものができたときの達成感というのが良いよね。私らのやることは溶けて消えるもんはなんもない。後にも全部残ってくるから、いい加減なことはできない。

周りから左右されず、自分で思うようにできるのが良い。いつもやってる手慣れたものより初めて手掛けるものがあるときは、迷って眠れないこともあるんだけど、布団の中である程度完成させる構図を描くんです。想像の中でね、いろんなやり方をやってみてイメージを作ってそれからかかるんですけどね。そのイメージと合わないことは結構あるけど…。

うちらは納期が早いことが一番苦労するね。それまでに間に合わせんならんからいくつも抱えていると厳しい。

名人が作った名刺入れ

木材を彫るには力が必要！

9. 危機！！！！

昔、欄間を彫っとった間は他のことはやってなかった。ここまで少なくなるとは思ってなかったなぁ。今は家屋が変わってまったで他のものばっかり彫ってる。やっぱ残していかなきゃいかんのやけどね。日本の良いとことか知ってる人が少なくなってきてもったいない。うちが色々やってもらってた大工さんも高齢になったり亡くなったりして、良い技術もってる人がね、仕事ができなくなってるから。僕もね、親父じゃなくて自分から始めた仕事だから息子に押しつけることはしない。途中でやってみたいとか言われても1年や2年でできることやないし、僕がやってきたことがすぐできれば誰でもなれるんやけど…。難しいよね。

日本の良さはいっぱい家に詰まってたんだけど、みーんななくなってくもんね。若い人がそれを望むんやしね。たまに和室が好きって人もみえるけど、10分の1よりも少ないかもしれんねぇ。

名人　浅野（あさの）　貞夫（さだお）さんのプロフィール

●生年月日：昭和20年8月26日生まれ
●職業：彫刻師

23歳から彫刻に携わり、26歳の時に「浅野彫刻」を設立。以後、銘木（秋田杉、屋久杉、神代杉、イチイ等）を活用し、欄間、社寺彫刻、家紋、看板彫刻などの彫刻品の製作や修繕を行っている。近年は、彫刻教室の教材、机、椅子、小物入れなどの木製品の製作も行うとともに、若い人の指導にも力を入れ、技術の継承に細心している。

また、出身地の本巣市根尾大河原地区の自治会長や保存会の会長として、神社の清掃、祭りの開催、人家の雪囲いなど集落の保全・保存に尽力されている。

※原本は長文のため、文章の一部を割愛しています。

【森の名手・名人編集担当
公益社団法人
岐阜県緑化推進委員会　専務理事　黒﨑隆司】